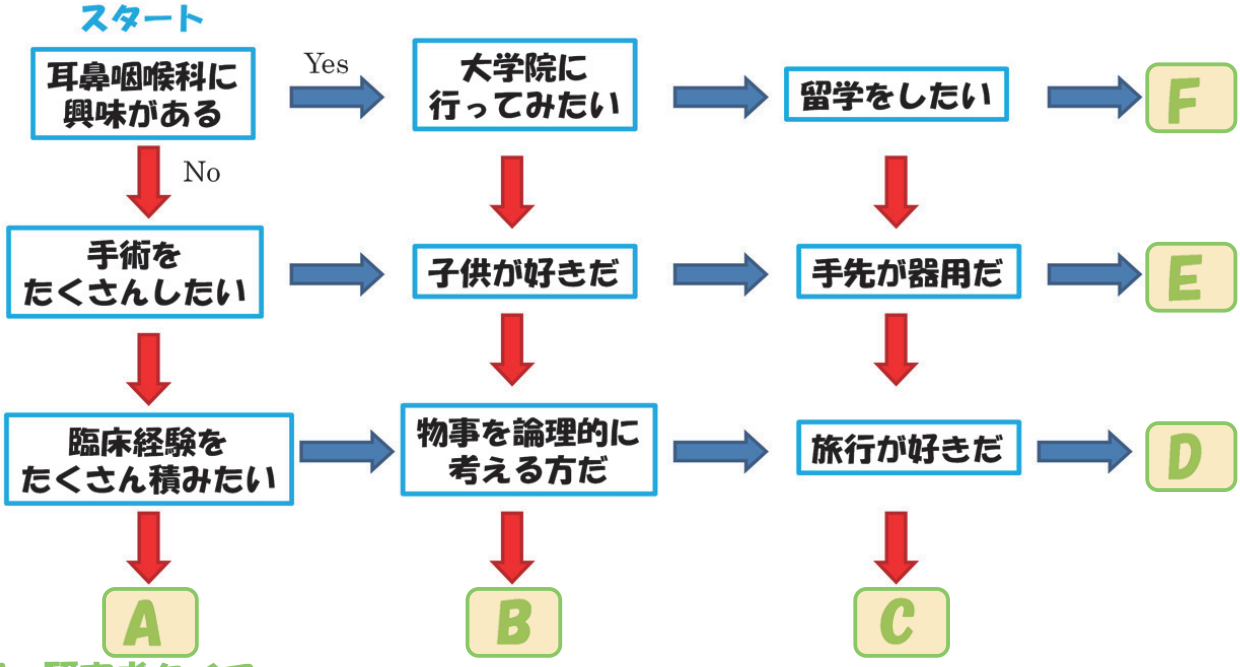
耳鼻咽喉・頭頸部外科学系

感覚器・頭頸部のスペシャリストになろう！

耳鼻咽喉科医適性度チェック



A：研究者タイプ

特に耳鼻咽喉科や臨床に興味があるわけでもないあなたには、研究が向いています。
味覚、聴覚、平衡、頭頸部腫瘍など当教室では幅の広い研究を行っていますので、
あなたにあった研究が見つかるはずです。

B：お気楽タイプ

とりあえず臨床をやって、お医者さんとしてやっていければいいかなと考えているあなた。
耳鼻咽喉科では入局2～3カ月後には外来診療に従事するので、一人立ちが早く、臨床の
スキルアップが望めます。

C：病棟の守護神タイプ

冷静な判断能力を持ち、スキルアップを望むあなたは病棟医の鏡です。
気道を扱う耳鼻咽喉科医にとって、あなたの持っているポテンシャルが必要です。

D：学会発表タイプ

旅行が好きで、スキルアップもお望みなら学会へ参加されるのがいいでしょう。
耳鼻咽喉科では専門分野が細分化されており、年間を通して国の内外を問わず多数の
学会が行われています。我々と一緒に世界中の学会に参加して発表をしましょう。

E：ブラックジャックタイプ

手先の器用なあなたは職人肌です。耳鼻咽喉科では内視鏡や顕微鏡を用いた細かい手術が
多く、あなたの腕が必要です。

F：サラブレッドタイプ

ようこそ耳鼻咽喉科へ。もう迷う事はありません。入局をお待ちしています。

・内科系も外科系もどちらもできるのが耳鼻咽喉科の魅力です。

耳鼻咽喉科医は感覚器、運動器、感染症、腫瘍など非常に幅の広い分野に携わる事が出来ます。そのため、内科系にも外科系にも幅広く知識や技術を身につける事が可能です。感覚器には「聴覚」、「平衡覚（バランス）」、「味覚」、「嗅覚」、「視覚」、「触角（温痛覚）」があり、この6つの感覚器のうち耳鼻科では実に4つの感覚器を扱っています。さらに運動機能として呼吸機能、嚥下機能、発声機能や頭頸部腫瘍など感覚器とは全く異なる分野が混在しており、それゆえ非常に奥が深く、幅の広いサブスペシャリティーを身につける事が出来るのが最大の特徴です。

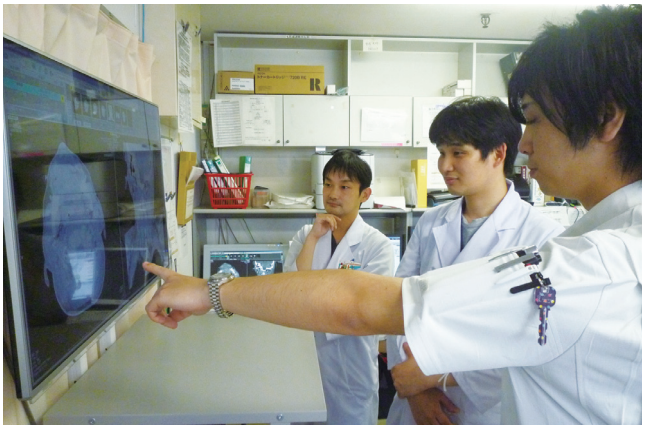
・耳鼻咽喉科医の将来性

耳鼻咽喉科の医師数は全国で約1万人おり、医師数全体の2～3％しかいません。急速に高齢化が進む昨今の日本では、感覚器、発声や嚥下などの頭頸部機能、腫瘍性疾患などがこれからますます増えることが予想されます。感覚器においては、今まであきらめていた重度難聴者でも人工内耳が普及し、聴こえを取り戻す事が可能になりました。頭頸部腫瘍においても嚥下や発声機能を失わずに治療をする「機能温存治療」が普及しています。さらに難聴遺伝子の解析やアレルギー性鼻炎の舌下免疫療法(減感作療法)などこれから様々な分野で新たな診断法や治療法が生まれてきます。耳鼻咽喉科医は専門性が高く、患者さんにとってこれからますますニーズが増える事は間違いないでしょう。

・大学病院で研修をして、耳鼻咽喉科のエキスパートを目指そう

耳鼻咽喉科は疾患に対して「外科的治療」、「内科的治療」という両面からアプローチします。小児から高齢者まで多様な患者の訴えに的確に応え、また気道を扱うことから患者の生命に密接に関係するため、深い知識と高度な技術が要求されます。大学附属病院および関連病院には耳鼻咽喉科全般の患者さんが受診しますので、研修に十分な症例数を経験できます。手術件数は板橋病院では年間500件以上、駿河台で300件、総計で800件以上の手術件数があります。外来においても味覚、中耳、感音難聴、顔面神経、めまい、腫瘍、音声、アレルギーなど多様な専門外来があります。これは各分野のプロフェッショナルが揃っている大学病院だからこそできる事で、浅く広くではなく、深くて幅の広い知識と技術を身につける事が出来ます。当教室は日本耳鼻咽喉科学会と日本頭頸部外科学会の専門医認定研修医療機関の認可を受けています。関連病院として都立広尾病院、国立埼玉病院、川口市民医療センター、上尾中央総合病院、あさか医療センター、湘南藤沢徳洲会病院があり全ての病院で日本耳鼻咽喉科学会から専門医研修指定病院としての認可を受けており、各病院と連携をとり大学の医局ならではの幅の広い知識と実力を身につけることが出来ます。

手術カンファレンスで頭頸部のCT画像について説明をする長谷川先生。横断型プログラムの大学院生です。



病棟で、若い先生に熱心に指導をする高根先生。分からない事は、上級の医師が何でも丁寧に教えてくれます。

Q＆A　耳鼻咽喉科ってどんな医局なの？

耳鼻咽喉科の医局は医局員同志はもとより、看護師、コメディカルの方たちとも家族ぐるみで仲のいい、とてもアットホームな医局です。ここでは皆さんの疑問にお答えします。

Q．耳鼻咽喉科はマイナーなイメージで、仕事に対する具体的なイメージがわきません。

A．耳鼻咽喉科では1年目から外来をもつ事が出来るため、初診から検査、診断、治療、手術、術後の経過までをすべて自分の目で見て行い、また治療効果を確認する事が出来ます。そのため、患者さんとの信頼関係が築けるやりがいのある診療科です。

Q．耳鼻咽喉科関連の専門医にはどのようなものがあり、どうすれば取得できますか？

A．日本耳鼻咽喉科学会認定専門医試験が年一回行われています。一般的には後期臨床研修開始後４年経過（初期臨床研修開始後６年経過）で日本耳鼻咽喉科学会研修指定病院における所定の研修や、所属長の認定などを経て受験資格が得られます。耳鼻咽喉科専門医取得後も気管食道科専門医（日本気管食道科学会）、頭頸部がん専門医（日本頭頸部外科学会）、めまい相談医（日本めまい平衡医学会）、アレルギー専門医（日本アレルギー学会）等、多数の専門医資格を取得する事が可能です。

Q．臨床研修中に耳鼻咽喉科を選択するメリットはありますか？

A．気道のトラブルやめまい患者さんのプライマリーケアなど、どの診療科に行っても必要な基礎知識や手技を学ぶ事が出来るため、耳鼻咽喉科を選択するメリットは大きいと考えられます。

Q．耳鼻咽喉科の医師には女性はどのくらいいますか？

A．日本耳鼻咽喉科学会の約20％が女性医師です。女性医師は年々増加傾向にあり、小児難聴をはじめ従来から女性医師が活躍してきた領域も多く、高い専門性を保ちながら医療の第一線で活動を継続している女性医師が多いのが特徴です。
当医局では臨床の現場を一時的に離れ、子育てをしながら研究を行い学位を取得した女性医師も複数在籍しています。

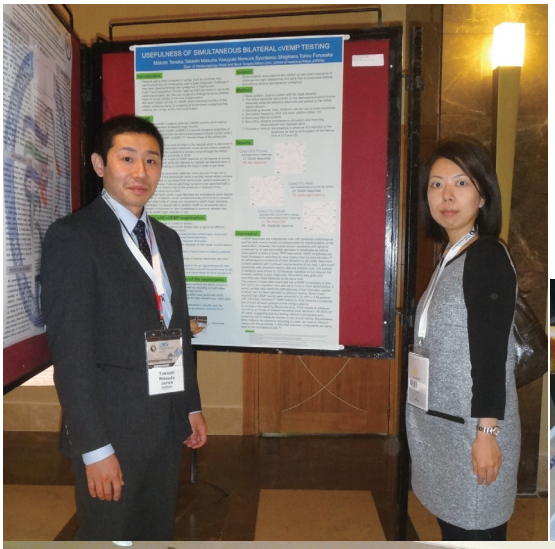
Q．どうして耳鼻咽喉科を選んだのですか？

A．耳鼻咽喉科は専門性が高く豊富なサブスペシャリティーがあるので、自分に向いている領域が見つかるだろうと思った事。またニーズが多いので自分の興味や生活スタイルに合わせて様々な勤務形態（大学、研究者、勤務医、開業）をとれる可能性がある事などでしょうか。

Q．耳鼻咽喉科医のQOLはどのようなものですか？

A．耳鼻咽喉科の勤務形態は比較的はっきりON/OFFの区別をする事が可能です。
当医局では年2回、1週間のまとまった休暇を取得する事が出来ます。
仕事以外で自分の趣味のライフワークを持ち、仕事と両立させている医師が多いのも特徴です。

以前の様子はご覧の通りですが、現在は新型コロナ感染拡大に伴い海外学会や各種レクリエーションは自粛しております。



トルコの学会で発表をする増田先生と田中先生。発表後には地中海料理を堪能したそうです。

納涼会で職員の子供たちと踊る若い先生たち。アットホームな医局です。安心して研修を受けに来てください。

耳鼻科野球チーム
選手、マネージャー大募集！！
トライアウト随時受付け中

＜　さいごに　＞

耳鼻咽喉科は、非常に多岐にわたる分野の修練が必要です。当科では豊富な症例と経験豊かな指導医のもと、一人前の耳鼻咽喉科医になるためのお手伝いを十分に行うことができると考えています。また、耳鼻咽喉科に興味がなくても、気道確保やめまいのプライマリーケアを学びたいという研修医の先生も大歓迎です。皆様の研修をより充実したものにするために、耳鼻咽喉科ではそのお手伝いをさせていただきます。是非、耳鼻咽喉科で充実した研修を受けてください。

続きはWebで・・・耳鼻咽喉科医局HP　日大耳鼻科　検索

http://www.med.nihon-u.ac.jp/department/jibika/

問い合わせ先

日本大学医学部附属板橋病院耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野　医局長　木村　優介
医局秘書　木下　玉代
東京都板橋区大谷口上町 30-1　日本大学医学部耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野
TEL：03-3972-8111（内線 2542）
E-mail：kinoshita.tamayo@nihon-u.ac.jp